

II 都市の将来像

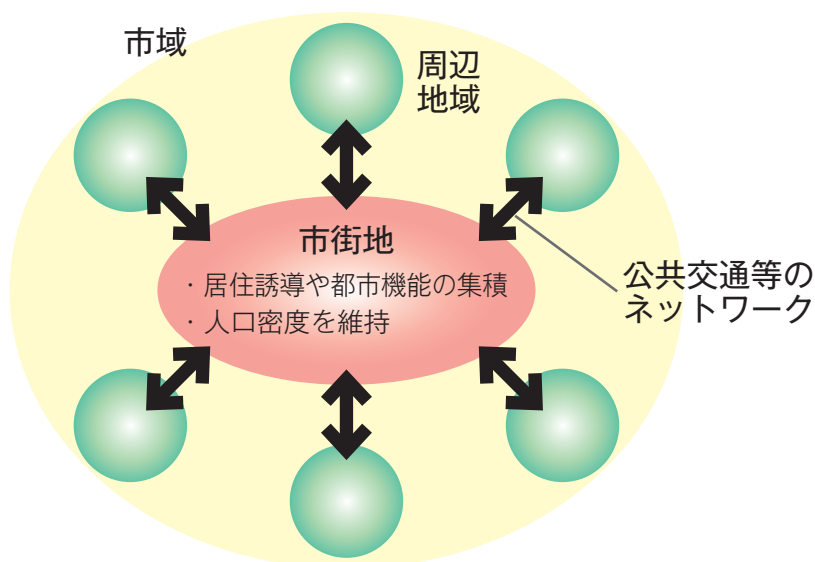
1. 目指すべき都市のすがた

(1) これからの都市づくりにおける基本的な考え方

今後、都市全体において人口減少や高齢化の進展が予想されるなかで、長期的な都市の活力を維持していくためには、将来に渡って持続可能な都市づくりを進めていく必要があります。

人口減少下においては、市街地の人口密度低下に伴う都市的サービス*の低下も懸念されています。居住の誘導や都市機能の集積を進めることで、市街地の人口密度維持を目指します。また、市街地と各地域が公共交通等のネットワークにより結ばれ、身近にアクセスできるような都市構造*の構築を目指します。

この居住の誘導や都市機能の集積を促進する「立地適正化計画*」とも連携し、都市づくりを推進します。



《まちづくり総合計画*での理念と将来像》

本市の「まちづくり総合計画」では、「自立」「個性」「経営」「協働*」「共生」を基調とした「共創*」によるまちづくりを理念とし、「住みよいまち日本一 健康田園文化都市・しばた」を将来都市像として掲げています。また、将来都市像を実現する視点として、「健康長寿」「少子化対策」「産業振興」「教育の充実」の4点を挙げています。

■まちづくりの理念

「自立」「個性」「経営」「協働」「共生」を基調とした市民との『共創』によるまちづくり

■将来都市像

「住みよいまち日本一 健康田園文化都市・しばた」

■将来都市像を実現する4つの視点

①健康長寿 ②少子化対策 ③産業振興 ④教育の充実

(2) 都市づくりの将来像

「まちづくり総合計画*」での理念や、これからの都市づくりにおける基本的な考え方を踏まえ、新発田市都市計画マスタープランでは、「都市づくりの将来像」を以下のとおり設定し、まちづくりを推進します。

《都市づくりの将来像》

安心安全で持続可能な魅力ある都市

①コンパクトで暮らしやすいまちづくり

- ・市街地へ適切に居住誘導することで人口密度を維持します。
- ・都市機能を集積した、利便性の高い都市拠点を形成します。
- ・拠点間をネットワークで結び、人が交流する賑わいのあるまちを形成します。
- ・情報通信技術の活用により、まちの機能やサービスを効率化し、快適性・利便性を向上します。

②人口減少や高齢化を見据えた持続可能なまちづくり

- ・人口減少や高齢化を見据えた土地利用、交通網整備を促進し、集落地での居住環境を維持します。
- ・利活用のされていない公共施設などの既存ストックを有効に活用し、財政負担の少ない効率的な都市を形成します。
- ・再生可能エネルギーの普及や公共交通の利用を促進した、ゼロカーボンシティ*の実現を目指します。

③市民が安心安全に暮らすことのできるまちづくり

- ・災害リスクを踏まえた総合的な防災・減災対策により、災害の危険がない、安心安全に暮らせるまちを形成します。
- ・子どもからお年寄りまで、安全に自由に移動でき、安心して暮らし続けられるまちを形成します。
- ・居住の場、働く場、憩いの場といった様々な機能を備え、ニーズ、価値観や生活様式の変化・多様化に柔軟に対応できるまちづくりを進めます。

④地域資源を保全・活用したうるおいと魅力・活力のあるまちづくり

- ・本市の特徴である豊かな自然や農地、河川などを保全・活用し、環境と調和したまちを形成します。
- ・城下町の歴史・文化をはじめとした本市の持つ豊富な地域資源を活用し、地域の魅力を高めます。

2. 将来都市構造

(1) 将来都市構造とは

将来都市構造は、道路や拠点など目指すべき将来の都市の骨格を、空間的かつ概念的に表したものです。

本市の都市構造*は、多様な都市機能が集積し市民の生活を支える「拠点」と、拠点を有機的に結び人やモノの移動を支える「軸」の要素によって描くものとします。ただし、拠点や軸の設定には、地形条件や土地の規制にも配慮します。

(2) 将来都市構造

本市の将来都市構造を以下のように設定します。

■拠点

地域特徴に応じて以下の3つの拠点形成を図ることとします。

拠点名	考え方	条件	具体的な箇所
都市拠点	・市の中心となるべき地区	・高次の都市機能や都市サービス機能が集積し、利便性が高い。 ・鉄道・バスが運行し、市内・市外からのアクセスに優れている。	新発田市街地中心部
地域拠点	・郊外部や農村集落での生活環境を維持するため、周辺地域や集落の中心となるべき地区	・学校やコミュニティセンターなどの公共施設が立地し、周辺地域住民の生活を支える。 ・商業施設が立地し、日用品の買物等ができる。 ・鉄道またはバスが運行し、都市拠点とのアクセスや、周辺集落地とのアクセスが確保される。	①五十公野 ②川東 ③加治 ④菅谷 ⑤佐々木 ⑥中浦 ⑦天王 ⑧稻荷岡 ⑨藤塚浜 ⑩加治川 ⑪金塚
産業拠点	・製造業や観光などの機能の充実や集積を促進し、地域の産業を牽引する地区	・工業団地、工業施設集積地 ・観光地及び関連施設の集積地	①藤塚浜工業団地 ②金塚工業団地 ③箱岩工業団地 ④西部工業団地・佐々木工業団地 ⑤豊浦工業団地 ⑥食品工業団地 ⑦山崎工業団地 ⑧月岡温泉

■軸

拠点間や周辺市町村を結ぶ道路や鉄道を対象に、以下の3つの軸を設定します。

	軸	考え方	具体的な箇所
1	広域 連携軸	<ul style="list-style-type: none"> ・県内外での広域的な連携を支える道路 ・広域での人やモノの交流を促進し、産業の活性化を図る道路 	<ul style="list-style-type: none"> ・日本海沿岸東北自動車道（聖籠新発田 IC、中条 IC）
2	都市 連携軸	<ul style="list-style-type: none"> ・近隣市町と接続し、地域連携を促進する道路や鉄道 ・市の幹線であり、各種産業の活性化や市民の生活活動を支える道路や鉄道 	道路 <ul style="list-style-type: none"> ・2環状8放射[*]の道路のうち、外環状道路と近隣市町中心部とを結ぶ放射軸 ・本市と周辺市町の中心部を結ぶ主要国道
			鉄道 <ul style="list-style-type: none"> ・JR白新線 ・JR羽越本線
3	都市内 交流軸	<ul style="list-style-type: none"> ・都市拠点と地域拠点あるいは地域拠点相互を結ぶ道路 ・市民の生活活動を支える道路 	<ul style="list-style-type: none"> ・2環状8放射のうち上記以外の道路 ・都市拠点と地域拠点を結ぶ道路 ・地域拠点間を結ぶ道路

